



編集兼発行

公益財団法人 小笠原協会

東京都港区海岸1-12-2

竹芝客船ターミナル2階

電話 03-3432-4921

FAX 03-3432-4487

振替貯金口座(郵便)

00190-9-64610

みずほ銀行芝支店

普通 3242428

全国復帰っ子オンライン交流会開催される

4月29日、小笠原村と沖縄、奄美、十島村(トカラ列島)などの4地域をオンラインで結ぶ交流会が開催されました。

交流会は沖縄県の前泊美紀氏が進行役を務め、各地域が自己紹介の後、①復帰運動の概要、②復帰と現在、③それぞれの課題などを意見交換し互いに理解を深めました。



小笠原村有志グループ(東京竹芝会場)

これらの地域は、いずれも太平洋戦争敗戦後に米軍の直接施政権下に置かれた地域でしたが、その後、段階的に日本へ復帰(返還)されました。今年には沖縄が日本に復帰してから50周年の記念すべき年で、沖縄の復帰っ子(沖縄が復帰の年に生まれた子供)たちが組織する、「沖縄県復帰っ子連絡協議会」(那覇市議会議員・前泊美紀代表)の呼びかけで、復帰(返還)を経験した地域の歴史を共有し、交流することで未来に向けた新たな関係を築き、地域の発展に役立ち・貢献していく、との思いから開催されました。

参加者は沖縄から「沖縄県(1972年復帰)復帰っ子連絡協議会」(奄美群島(1953年復帰)の日本復帰運動を伝承する会)、「十島村(トカラ列島)(1952年復帰)」そして「小笠原村(1968年返還)有志グループ」の4地域で、小笠原の東京竹芝の会場には父島出身の森田裕一氏(在京)が有志グループの代表として参加し、この他に父島の菊池康彦、母島の折田五十二郎・前田豊の両氏、硫黄島出身三世の西村玲馬(在京)の各氏がオンラインにより参加をしました。

小笠原有志グループは森田裕一氏が挨拶、自己紹介の後、グループメンバーの4人を紹介。森田氏は挨拶の中で小笠原の来し方を振り返り、全島民の強制疎開や硫黄島玉砕では多くの村民が亡くなったこと、戦前の硫黄島には1,200人を越える村民が居住していたが、未だに村民の帰島が叶わないことなどに触れ、また、小笠原には空港が無く本土との間を結ぶ定期船がほぼ週一便しかない問題についても述べました。

続いて、父島の菊池康彦氏からは祖父虎彦氏が帰郷促進連盟の初代委員長として帰郷運動を主導し、父親の忠彦氏は小笠原青年連盟の代表として内地の旧島民の故郷訪問船

小笠原諸島のあらまし

・村内に最高峰と最も活発な火山がある
・約40の島々から構成される
・硫黄島、西之島、振渡列島など、活発に活動している火山がある



小笠原諸島返還記念式典(父島)



返還記念祝賀会(東京)

など旧島民の帰島に尽力されたことなど、祖父・父から伝え聞かされている話や返還への思いなどが語られました。母島の折田五十二郎氏からは、先祖が明治12年に母島に入植した定住草分けで苦労したこと、父親の稔氏は小笠原村初代の教育委員長として尽力したことなどが語られました。

小笠原の漁業の歩み

東京都 小笠原支庁
境 敦史 産業課長
白倉 秀平 課長代理
(水産担当)
城 智聡 水産センター所長

小笠原の漁業は、日本で最も広い漁業水域で行われており、資源が非常に豊富です。その始まりは、父島の大神山公園にある石碑によれば、明治時代に政府役人の鍋木余三男という人物が小笠原に赴任し、漁業振興に取り組んだことに遡るそうです。こうした小笠原の漁業について紹介します。

小笠原の漁業の歴史

小笠原では、明治時代初期には捕鯨計画、末期の発動機船の使用、大正時代初期の冷凍運搬船による鮮魚輸送など、当時、日本の漁業の先端を歩んでいました。また、鰹節製造やマグロはえ縄漁が盛んに行われていたそうです。

戦前までは、回遊するカツオ、マグロ、クジラ、その他にハマダイやムロアジ、タカベなどの魚が大量に水揚げされました。そして、昭和初期のサンゴブームでさらに栄

え、捕鯨頭数も年間三百頭を超えてきました。兄島と母島には鯨解体工場、父島と母島には製氷工場があり、カツオ節、ムロアジの製造もしていました。漁業は小笠原の基幹産業となり、最盛期には漁業組合員一人当たりの平均年収が四千五百円を超えていたことから(当時、教員の年収が八百円、総理大臣で八千円)、大変裕福だったことがわかります。

戦争終結と同時に米軍の統治が始まり、それから23年もの間、小笠原の海はほとんど手付かずでしたが、返還された1968(昭和43)年には漁業協同組合を設立、漁業が再開されました。しかし再開当初は、労働力不足、漁業生産基盤の未整備、未熟な漁業技術などにより、周辺に好漁場を有しながら低迷してしま

した。その後、漁獲量は、共同操業から個人操業に移行、また、漁業関連施設の充実とともに徐々に増えていき、1986(昭和61)年以降はマグロ類への魚種転換が進んだことを受け、概ね安定的に推移していきます。

現在の小笠原の漁業

現在、主に10トン未満の漁船を使用し、聳島列島、父島列島、母島列島周辺から西之島、硫黄島を含む火山列島周辺までの広範囲にわたって漁業が行われています。各種共同利用施設・漁港の整備も着実に進められ、加えて漁船の近代化や後継者の受け入れ効果などもあり、近年の水揚げは増加傾向にあります。2016(平成28)年には過去最高となる漁獲金額を記録しました。

漁獲物としては、以前はハマダイ、アカハタなどを対象にした底魚一本釣り漁業が中

心でしたが、近年の小笠原式深海たて縄漁業の開発・導入により、1997(平成9)年頃からの主流はメカジキ、メバチマグロといった広域回遊魚です。その他にも、イカ釣、イセエビ漁、アオウミガメ漁、サンゴ漁が営まれています。ちなみに、小笠原の三大漁獲物といえば、メカジキ、ハマダイ、ソデイカと言われています。

これら漁獲物の大部分は、定期船おがさわら丸で内地に出荷されています。輸送には長い時間を要しますが、新鮮なまま市場にお届けできるよう、鮮度を保つための工夫も行っています。

メカジキ

小笠原式深海たて縄漁業により漁獲され、令和2年の小笠原の総水揚げ金額のうち最も多い50%以上を占めるのがメカジキです。メカジキは刺身だけでなく様々な料理に使用されています。島の飲食店ではステーキや煮つけなどで提供され、小笠原土産として人気の「メカジキカレー」にも使用されています。



漁業調査指導船「興洋」により釣獲されたメカジキ

ハマダイ(オナガ)

ハマダイは尾びれの先端が長い糸状になっているのが特徴で、小笠原を含む関東地方では「オナガ」という呼び名で親しまれています。高級魚として取引され、塩焼きや刺

身、天ぷら、煮つけに加え、小笠原の郷土料理「ピーマカ」など、様々な料理に利用されています。小笠原海域ではメカジキの次に水揚げ額が多い魚種です。一方で、深海に生息しているため、生態に関する知見が少なく、長年の漁獲による資源への影響が懸念されています。

アカイセエビ

小笠原で利用されている磯根資源の一つにアカイセエビがあります。内地と比べて大型に成長し、歩脚の各節が青紫色であることなどで区別できます。日中は岩陰や洞窟の中などに潜み、夜中になると活発に動いて餌を探します。小笠原では他にシマイセエビ(島名アオエビ)やカノコイセエビなども漁獲されますが、アカイセエビの割合が圧倒的に高くなっています。しかし、近年では漁獲量が減少しており、漁協では漁獲制限を設けるなど、資源保護の取り組みが行われています。



岩陰に潜むアカイセエビ

アオウミガメ

アオウミガメは小笠原や沖



水揚げされたハマダイ

縄などで食用として漁獲されており、古くは明治以前から貴重なタンパク源として漁獲された記録が残っています。現在でも小笠原の郷土料理の一つとして煮込みや刺身などで食われています。一時は千頭を超える漁獲がありましたが、その数は減少し、現在では知事許可漁業として漁獲頭数が制限されています。また、各種調査や人工ふ化、放流など、アオウミガメを増やすための取り組みも行われています。



水産センターのアオウミガメ

持続可能な漁業に向けて

広大な漁業水域を持つ小笠原といえども、無制限な漁獲は資源の枯渇を招くおそれがあります。そのため、東京都では漁業許可や取締、小笠原海区漁業調整委員会による漁獲許可隻数の調整などを行っています。また、東京都小笠原水産センターでは、水産資源の持続的な利用や小笠原の漁業振興のための研究やその成果の普及を行っています。

国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の一つには「海の豊かさを守ろう」という目標があります。小笠原の漁業においても、地域の基幹産業の一つとして、将来も安定的に発展していくために、今後も持続可能な漁業に取り組んでいきます。

令和4年度

小笠原諸島振興開発事業費予算について

振興開発事業費 17億5千700万円

I

小笠原諸島の現況

小笠原諸島振興開発特別措置法に基づき、令和元年度に策定した小笠原諸島振興開発計画の計画期間も半ばを過ぎました。この間、小笠原諸島の自立的発展に向けた様々な施策を推進してきました。

では、住民生活の安定・福祉の向上、定住の促進を図り、小笠原諸島の自立的発展を目指すうえで根幹となる産業基盤や生活基盤施設等の整備を実施します。

各事業の概要は次のとおりです。

①産業基盤施設等整備費補助

ア 港湾整備 (都事業)

二見港では岸壁の改良工事を行い、沖港では泊地の浚渫工事を実施する。

イ 農業・水産業基盤整備

◆ほ場造成 (都事業)

母島の貯水施設設置工事を実施する。

ウ 農業・水産業振興

◆農業試験地 (都事業)

圃場管理棟整備の実施設計を実施する。

エ 観光振興

◆自然公園 (都事業)

園地・歩道整備、自然環境のモニタリング調査や外来種対策を含む植生回復、自然ガイドの養成講習等を実施する。

令和4年度の振興開発事業は、このような背景を基に予算化されており、事業内容のより一層の充実を図っています。

こうした課題を解決するために、計画に基づき振興開発事業を着実に進める必要があります。

II

振興開発事業の概要

◎事業費

17億5千700万円
国庫補助の対象となる令和4年度の事業費予算は約17億5千700万円となり、令和3年度の約18億8千600万円から約6.8%の減となっています。

1

小笠原諸島振興開発事業費補助

令和4年度の振興開発事業

◆し尿処理施設 (村事業)
父島の管渠新設工事及び母島の処理施設改良詳細設計を実施する。

◆浄化槽施設 (村事業)

浄化槽(1基)を父島に新設する。

◆小中学校整備 (村事業)
屋内運動場・プール棟の工事を実施する。



◆砂防 (都事業)

父島の時雨川支川及び母島の大谷川支川の砂防対策工事を実施する。

2

小笠原諸島振興開発費補助金

①病虫害等防除

ア 防除 (都事業)

ミカンコミバエ等再侵入警戒調査・アフリカマイマイ防除等の事業を実施する。

イ 試験研究 (都事業)

指定病虫害及び一般病害虫防除の試験研究を実施する。

②診療所運営 (村事業)

診療所の管理運営、機材の確保等の整備運営を実施する。

③各種調査 (都事業)

観光振興事業として、旅行者の実態やニーズを調査する。

小笠原村

中吉丸奇跡の漂着と小笠原の歴史▽その五

小笠原村役場総務課 セーボレー孝

南海の遺産

当記事は「都政新報」へ令和2年6月に掲載された記事です。その5を掲載させていただきます。
(計6回)

2010年1月、教育委員会事務局にいた私は、陸前高田市立博物館に保存されている錢別品の「里帰り展」を企画していた。一方、陸前高田市では「中吉丸」の船主、中野屋庄兵衛の子孫である菊池達夫妻と菊池氏の友人、及川征喜夫妻が、世界自然遺産候補地の小笠原観光と先祖が漂着してお世話になったことのお礼の旅を計画していたのである。

及川氏から電話があった時は、両方でこの偶然に驚き、先祖の導きと思い胸を弾ませた。2月下旬、4人が遠路遙々来島した。船主の5代目子孫、及川庄八郎氏から預かった「乗組員の無事帰国とお礼」の



セーボレー氏と中吉丸の5代目子孫との記念写真

挨拶文を受け取ったのち、先祖ナサニエルの墓に案内し、感謝の意が伝えられた。

次に、漂着した乗組員が見た当時の島の様子や資料、江戸時代末期の史跡などを案内した。また、時代は「見る鯨」に移行していて、4人はホエル・ウォッチングも体験し、島を後にした。

10月中旬、私が陸前高田市を訪ねると、5代目の子孫が出迎えてくれた。船主の子孫、及川庄八郎氏、舵取りの子孫、鈴木敬一氏、水主の子孫、上野文雄氏、大和田タミ子氏の4人である。

上野氏に「私達が今いるのは、助けていただいたお蔭です。」とお礼を言われた時は、感動が込み上げ、先祖が力を合わせて、全員無事に家族の元に帰してあげたことを誇りに思った。

「小友浦船(中吉丸)漂着170周年特別展」は、11月から翌年1月まで開催され、多くの村民、観光客に「中吉丸」奇跡の漂着を紹介出来た。展示を終えて博物館に返された錢別品は、11年3月の東日本大震災による津波で、残念ながら流失してしまった。

170年前の島民との交流の証しだった品々は、子孫同士の交流のきっかけを作り、乗組員の元に帰ったのである。

せーぼレー・たかし

小笠原村出身。村役場に勤務する傍ら、最初に島に移住したアメリカ人の子孫として、先祖の歴史を今に伝える。
平成30年3月村役場定年退職。

「私と小笠原」

第8回

元医療課長 佐々木英樹



私は、本年3月31日付で、41年間お世話になった小笠原村役場を定年退職いたしました。

思い起こせば、私は公務員志向で、テレビ(東京都広報番組)で小笠原村役場職員募集の放送を見て応募、その後、自費で小笠原村現地での試験を受験し、昭和56年4月1日に採用されました。

それ以前の採用試験は、村外の受験者は、都内のみで実施されており、採用後は、来島未経験のまま着任していましたが、しかし生活が合わなかったのか早期退職が多かったとのことです。その後、私が受験した昭和56年から村外の受験者は、現地採用試験のみに切り替えられたようです。現在では都内での採用試験になっております。

私は、20歳の誕生日に勤務地の母島に着任、小笠原諸島が返還となって13年目でした。当時の母島は、上下水道はほぼ整備されていたものの、電話は島内に3本のみ(村役場母島支所、農協事務所、漁協事務所のみ)。TV放送もまだ視聴できず、夕方から4時間程度のCATVのみで、夜は小中学校体育館でのスポーツ三昧の日々でした。

そんな中、不安もありましたが、若かった私は島民の方々に大変に可愛がられ、特に婦人会の皆さんには大変にお世話になりました。

話になりました。

人の温かみに触れ、仲間意識が強く、島民一丸となり島民同士が協力し合ってたの島づくりに共感しておりました。

そして、村の発展に、やりがいを感じる中、母島での生活が、小笠原村で生活が続いていくと決めた原点になりました。

翌年1月の成人式では自分を含め3名が島民の皆さんに祝ってもらい、夜の祝賀会では婦人会の皆さんが御馳走を用意してくれました。

当時は母島に飲食店が少なかったため、来島者の歓迎会等は、通称「カンパク」(旧簡易宿泊所のちの村役場母島支所の大広間)で宴会などを行っておりました。

実は生涯忘れられないことが一つあります。昭和58年11月、台風17号が母島を襲った時です。

当初は、勢力もそれほどでもない予報でしたが、翌日、急に勢力と速度を増してその夜に最接近して被害をもたらしました。

急な台風接近に緊急招集がかかり、暴風雨のなか、村役場母島支所へ向かう途中、目の前で火花を散らしながら横切っていくトタンを電柱に隠れながらかわし、すさまじい光景の中やつのこととで村役場母島支所へたどり着きました。

その後、避難所を開設し避難者の送迎を手伝い、台風通過後、夜明けに壊滅状態の様相を目の当たりにした時は愕然としました。道路は瓦礫に埋もれ電柱が折れ建物が倒壊し大被害をもたらしました。

直ぐに、災害援助法が適用され、しばらくは通常の仕事には手が付けられず、被害家屋の片づけや被害調査に奔走しました。驚いたことは、島

民の一致団結により復旧が素早かったことでした。

話は変わりますが、平成6年2月の行幸啓では、目の前で天皇・皇后両陛下(現上皇・上皇后両陛下)にお会いできたこと、また、平成29年7月には秋篠宮紀子様と悠仁様が来島され、小港海岸にて星空観望をお手伝いしたことも思い出です。

平成25年4月には、現職の総理大臣(安倍晋三氏)をはじめ国会議員3名の島内での移動車両(村営バス)の運転手を任せられ、ドキドキしながら運転したことも忘れられません。

教育課長であった時に、機関誌(小笠原特集号第66号)で紹介された漂流船「中吉丸」に関する「小友浦漂着170周年特別展」の開催を担当し、岩手県陸前高田市との交流が始まりました。実は私の出身地は、岩手県大船渡市で陸前高田市の隣であり、この中吉丸の水主(乗組員)の半数は大船渡市出身者でもありました。この偶然な出会いに、驚きました。今後も「中吉丸歴史継承交流事業実行委員会」の一員として、交流を継続し、深めながら後世に繋いでいくよう努めてまいります。

最後に、今後、自分の体調が許す限り小笠原に住み続けていきたいと思っています。

小笠原は、子供たちが多く、ゆつくりと高齢化が進んでいます。いずれ自分自身も高齢者の仲間入りする時が来ることになるわけですが、できることであれば、今以上に高齢者や障害を持った方が住み続けられる社会環境が整備されることを期待したいと思っています。

これまでの経験を活かし、さらに住みやすい島づくり・発展に少しでも貢献できればと思っています。今日この頃です。

平塚 好則	田口 啓子	清水 喜由	川野 裕之	小濱 哲二	岩本 園子	吉田 不曇	宮澤 武二	増井 武	長谷川 聡子	中村 豊	中村 博信	富田 清浩	袖山 直樹	稲垣 強	秋元 篤司	若澤 美義	山田 孝弘	八川 眞由美	古川 治夫	長谷部 マチ子	延島 冬生	天明 孝志	滝沢 恵美	高橋 和志	銭谷 正勝	杉山 節子	佐藤 充	酒寄 靖子	今野 愛子	小島 泰史	菊池 はな子	神島 重希子	大平 マイケル	榎澤 幸広	伊藤 修一	荒牧 正子	相川 康太	熊沢 淳也	増山 一清	林 眞一郎	瀬堀 エル	五十里 圭紀	山入 端キヨ子	山中 統紀子	森 康正	前田 豊	辻 トメ子	田岡 克己	清水 英明	佐々木 日出子
藤田 かつる	戸所 静夫	鈴木 千恵子	三枝 佳紀	加藤 克子	萩原 勉	新井 榮二	山本 勝博	右田 裕子	藤本 武文	中森 福代	中村 充宏	長島 俊彰	武市 定雄	三瓶 清晴	伊藤 央樹	青木 慎一	横山 辰巳	山口 玲子	森川 恭助	久田 奈津子	久田 浩二	成田 浩	俵 真未	高村 あゆみ	袖山 豊明	清宮 眞知子	椎名 智代	佐々木 英樹	今野 照雄	小林 昌市	熊谷 明子	川島 直之	大平 カール	大滝 茂美	今泉 貴裕	井出 和夫	浅蔭 章代	高橋 義勝	熊谷 裕一	藤本 功	中田 智子	上野 裕代	米澤 和昭	弓野 よし江	箭内 浩彌	松崎 俊治	登坂 洋介	宅間 清昭	瀬川 富久	椎野 雅子

袴田 知宏	永井陽一郎	城下 治子	加藤 正樹	横尾 篤志	福原 誠志	橋本 敦史	中川 淳	高橋 巧	染谷 俊汰	片寄 陽平	石田 百世	生駒 青波	飯塚 雄三	陸川 理沙	牧野 容子	伊達 博	島方 優	楠 美帆	加山 次郎	乾 幸子	赤間 巖	依光 桃子	八川 修仁	林 安代	新谷 將夫	佐々木美加	荒船 正三	眞内 敏行	原田 知香	川辺 由己	岡本 良一	牛山ななほ	大山 瑠美	長峯 圭助	山田 雅文	富山 香子	高橋由紀子	篠原 弘奈	篠原 孝	小林 武史	神谷 孝	成瀬 悠子	藤井 秀一	山岡みさ子	小路 彩子	横倉 恵子	宮川メーリ・ヂュン	藤田 和紀	
宮田 靖子	袴田 愛	鈴木 朋範	佐々木哲子	一瀬 秀樹	小豆畑 淳	大久保勝司	橋本 敦子	中植 裕美	染谷 太	斎藤 毅	大澤五百子	石田 俊明	生駒 篤史	青木 浩之	村山 政雄	板東 和子	伊達 悦子	小林 正至	菊池 武博	榎本 泰雄	阿部 千智	赤間 泰子	山田 康彦	皆川 重次	中島 徳	下地 洋一	小野 康夫	小豆畑純子	船山 浩志	北山 朋裕	奥原 芳雄	岡本 数春	飯田 昌宏	大山 茂樹	齊賀 孝一	森永 諭	堤 清樹	高島 幸夫	関根 正夫	篠田 和枝	湯村 健	山岡 栄治	二宮 睦雄	鈴木 淳一	小谷 弘夫	加藤 保佳	稲垣 武久	米田美紗緒	山田 真

池田孝子	小野弘樹	熊谷隆	倉田洋子	山田紫織	青山ゆう	尾沼勝利	櫛田眞昭	小本創	坂本優美子	西浦利加	ハインマリウス	川口義道	鈴木奈々子	竹越麻西子	宮坂有紀子	牛窪眞理子	佐藤洋美	新川彰	吉野裕子	天野真治	中原章智	齋藤憲明	田巻克彦	徳田匡泰	山根健一	池田隆雄	石田立治	国松修	安田純一郎	渥美ひさよ	岩本陽児	栗林敏	田中隆三	長田眞作	熊谷宏子	塚田潤司	矢崎美美子	野溝由美子	安田眞理子	千葉繁雄	濱邊健志	津吉慶範	松田裕一	池田直美	小山外美子	上部健一	多田昭子	福岡康平	岩川孝志	佐藤ひろみ
伊藤孝将	唐澤正博	倉田信	田邊晴久	青山千津	小田知子	草柳明美	河野正明	坂部大	佐原一拓	松山貴俊		鈴木一史	関雅子	宮坂昌典	中島邦夫	奥山雅敬	佐藤洋子	長倉正治	吉野美咲	菅美良	川瀬航司	菅原澄紀	田巻優子	宮本貢治	渡辺英紀	福原弘子	国松えり子	八川浪	安森直輝	石橋きよみ	小笠原明宏	竹内成弘	飯田純子	桐山文司	田代義一	宮武彦	高橋三弥	前田美緒	荻野雅美	千葉はるか	松永宣一郎	永松睦美	池田司朗	神田豊	佐藤永隆	高橋恵子	平沢甲一	水田佳代子	村瀬清之	永田豊

令和4年6月1日現在 （ ）内は前年同月		令和4年5月気象状況 （ ）内は前年同月（父島）	
住民基本台帳登録者数		最高気温	28.8℃ (29.4℃)
○世帯	1,512世帯 (1,510世帯)	最低気温	18.9℃ (16.3℃)
父島	1,243世帯 (1,234世帯)	平均気温	24.2℃ (25.2℃)
母島	269世帯 (276世帯)	平均湿度	89% (85%)
		月降水量	31.0mm (43.0mm)
○人口	2,593人 (2,590人)	令和4年5月中の来島者数 （ ）内は前年同月（父島）	
父島	2,141人 (2,132人)	定期船	576人 (334人)
母島	452人 (458人)	観光船	180人 (0人)

山崎由美子	荒 良英	佐々木幸雄	張本 達宏	池田 真人	正井 彰俊	平山 欽一	後藤 美佳	牟田口 淳	小橋 弘道	新規入会者	山口 泰熙	野口 春海	古橋浩太郎	奥山 信介	岩崎 美幸	浅沼 研	笹渕 晃映	山崎 智子	酒井 総平	市川 高浩	絹川 悠介	吉江 洋子	小河原絳貴	飯塚 香	山口 協子	渡辺 淑子	河本英巳子	桑原 葵	川瀬 吉啓	令和四年新年号広告	小笠原興発株式会社	株式会社共勝丸	日本自動車ターミナル株式会社	大成建設株式会社
小山 麗子	荒川 博明	辻下よし美	有松佐知子	押切 重洋	小林 実	平山 直美	溝田 敦子	牟田口真由美	酒井 新奈		豊田小百合	柴原 克則	渡辺 真也	渋谷 正昭	小田 浩司	新井 敬造	成田 愛	小林 拓貴	大橋奈菜子	絹川 奈央	戸口 洋子	飯田 淳一	福井 敏弘	田中 敏彦	山口 哲	荻野 千尋	和田 裕	桑原真理子	工藤まゆみ					

▽令和3年度特集号広告
山崎 由美子
荒 良英
佐々木 幸雄
張本 達宏
池田 真人
正井 彰俊
平山 欽一
後藤 美佳
牟田 口 淳
小橋 弘道
西浦 利加
坂本 優美子
山岡 みさ子
小路 彩子
篠原 弘奈
高石 義久
高橋 由紀子
富山 香子
山田 雅文
長峯 圭助
飯田 昌宏
岡本 数春
牛山 ななほ
大平 カール
大滝 茂美
今泉 貴裕
井出 和夫
浅蔭 章代
高橋 義勝
熊谷 裕一
藤本 功
中田 智子
上野 裕代
米澤 和昭
弓野 よし江
箭内 浩彌
松崎 俊治
登坂 洋介
宅間 清昭
瀬川 富久
椎野 雅子

▽個人寄付
星 善男（十万円）
谷川 法律事務所
（三万五千元）
稲垣 武久（二万円）
神藤 信之（千円）
前泊 美紀（千円）
鈴木 高弘（千円）

▽令和4年新年号広告
小笠原 眞理子
伊藤 孝将
唐澤 正博
倉田 信
田邊 晴久
青山 千津
小田 知子
平山 直美
溝田 敦子
牟田 口 眞由美
酒井 新奈
松山 貴俊
坂部 大
河野 正明
草柳 明美
小田 知子
青山 千津
田邊 晴久
倉田 信
熊谷 隆
米田 美紗緒
稲垣 武久
加藤 保佳
小谷 弘夫
鈴木 淳一
鈴村 弘夫
神谷 武史
小林 孝
成瀬 悠子
藤井 秀一
山岡 みさ子
小路 彩子
篠原 弘奈
高石 義久
高橋 由紀子
富山 香子
山田 雅文
長峯 圭助
飯田 昌宏
岡本 数春
牛山 ななほ
大平 カール
大滝 茂美
今泉 貴裕
井出 和夫
浅蔭 章代
高橋 義勝
熊谷 裕一
藤本 功
中田 智子
上野 裕代
米澤 和昭
弓野 よし江
箭内 浩彌
松崎 俊治
登坂 洋介
宅間 清昭
瀬川 富久
椎野 雅子

▽寄付金
令和4年新年号
小笠原 眞理子
伊藤 孝将
唐澤 正博
倉田 信
田邊 晴久
青山 千津
小田 知子
平山 直美
溝田 敦子
牟田 口 眞由美
酒井 新奈
松山 貴俊
坂部 大
河野 正明
草柳 明美
小田 知子
青山 千津
田邊 晴久
倉田 信
熊谷 隆
米田 美紗緒
稲垣 武久
加藤 保佳
小谷 弘夫
鈴木 淳一
鈴村 弘夫
神谷 武史
小林 孝
成瀬 悠子
藤井 秀一
山岡 みさ子
小路 彩子
篠原 弘奈
高石 義久
高橋 由紀子
富山 香子
山田 雅文
長峯 圭助
飯田 昌宏
岡本 数春
牛山 ななほ
大平 カール
大滝 茂美
今泉 貴裕
井出 和夫
浅蔭 章代
高橋 義勝
熊谷 裕一
藤本 功
中田 智子
上野 裕代
米澤 和昭
弓野 よし江
箭内 浩彌
松崎 俊治
登坂 洋介
宅間 清昭
瀬川 富久
椎野 雅子

謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。
福島 立恵様 107歳
令和4年3月11日ご逝去
硫黄島出身
川島 はるか様 97歳
令和4年3月30日ご逝去
硫黄島出身

小笠原航路時刻表

（令和4年7月～令和4年12月）

ハートロック（千尋岩）

運航月時刻	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
7月	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	3泊
	5 (火)	6 (水)	7 (木)	8 (金)	9 (土)	10 (日)	
	11 (月)	12 (火)	13 (水)	14 (木)	15 (金)	16 (土)	
	東京発 11:00	父島着 11:00	父島泊 —	父島泊 —	父島発 15:30	東京着 15:30	父島泊数
	17 (日)	18 (月)	—	—	18 (月)	19 (火)	
8月	20 (水)	21 (木)	—	—	21 (木)	22 (金)	父島折り返し
	23 (土)	24 (日)	—	—	24 (日)	25 (月)	
	27 (木)	28 (金)	—	—	28 (金)	29 (土)	
	30 (土)	31 (日)	—	—	31 (日)	8/1 (月)	
	2 (火)	3 (水)	—	—	3 (水)	4 (木)	父島折り返し
9月	5 (金)	6 (土)	—	—	6 (土)	7 (日)	
	9 (火)	10 (水)	—	—	10 (水)	11 (木)	
	12 (金)	13 (土)	—	—	13 (土)	14 (日)	
	16 (火)	17 (水)	—	—	17 (水)	18 (木)	
	19 (金)	20 (土)	—	—	20 (土)	21 (日)	
10月	23 (火)	24 (水)	—	—	24 (水)	25 (木)	父島折り返し
	東京発 11:00	父島着 11:00	父島泊 —	父島泊 —	父島発 15:00	東京着 15:00	父島泊数
	27 (土)	28 (日)	29 (月)	30 (火)	31 (水)	9/1 (木)	3泊
	2 (金)	3 (土)	4 (日)	5 (月)	6 (火)	7 (水)	
	9 (金)	10 (土)	11 (日)	12 (月)	13 (火)	14 (水)	
11月	15 (木)	16 (金)	17 (土)	18 (日)	19 (月)	20 (火)	3泊
	21 (火)	22 (水)	23 (木)	24 (金)	25 (土)	26 (日)	
	27 (火)	28 (水)	29 (木)	30 (金)	10/1 (土)	10/2 (日)	
	5 (水)	6 (木)	7 (金)	8 (土)	9 (日)	10 (月)	
	12 (水)	13 (木)	14 (金)	15 (土)	16 (日)	17 (月)	
12月	19 (火)	20 (水)	21 (木)	22 (金)	23 (土)	24 (日)	3泊
	25 (火)	26 (水)	27 (木)	28 (金)	29 (土)	30 (日)	
	31 (月)	11/1 (火)	11/2 (水)	11/3 (木)	11/4 (金)	11/5 (土)	
	6 (日)	7 (月)	8 (火)	9 (水)	10 (木)	11 (金)	
	12 (土)	13 (日)	14 (月)	15 (火)	16 (水)	17 (木)	
12月	18 (金)	19 (土)	20 (日)	21 (月)	22 (火)	23 (水)	
	26 (土)	27 (日)	28 (月)	29 (火)	30 (水)	12/1 (木)	

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります

◎問い合わせ先 小笠原海運株式会社 ☎ 03-3451-5171

さあ！母島へ行こう

母島への航路（ホエールライン）（令和4年7月～令和4年12月）

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21km²です。
島の中央に乳房山（463m）があり島の周囲は58kmあります。
母島を観光される方は、下記の時刻表でぜひ訪島してください。

運航月時刻	おがさわら丸 父島入港日	おがさわら丸 父島入港の翌日	おがさわら丸 父島出港日	おがさわら丸 父島入出港日	その他の日	運休日				
運航時刻	父島出港 12:00		7:30	7:30 13:30	7:30					
	母島入港 14:00		9:30	9:30 15:30	9:30					
	母島出港	14:00	15:00	10:30 16:00	14:00					
	父島入港	16:00	17:00	12:30 18:00	16:00					
運航月日	7月	6 (水) 12 (火)	1 (金) 7 (土) 13 (水)	3 (日) 9 (土) 15 (金)	21 (木) 28 (水) 7/18, 7/24, 7/31 8/6, 8/13, 8/20 の 運航時刻 父島発 7:30 14:00 母島着 9:30 16:00 母島発 10:00 父島着 12:00	2 (土) 8 (木) 14 (水) 20 (火) 26 (月) 30 (土)	5 (火) 11 (日) 17 (土) 23 (金) 27 (水)		4 (月) 10 (日) 16 (土) 22 (金) 29 (木)	
	8月	28 (日)	29 (月)	31 (木)	3 (木) 10 (水) 17 (火) 24 (月)	2 (火) 5 (金) 12 (金) 19 (金) 26 (金)	8 (月) 15 (月) 22 (月) 27 (土)	9 (火) 16 (火) 23 (火) 30 (火)	4 (木) 11 (木) 18 (木) 25 (木)	
	9月	3 (土) 10 (土) 16 (金) 22 (木) 28 (水)	4 (日) 11 (日) 17 (土) 23 (金) 29 (木)	6 (火) 13 (火) 19 (月) 25 (日)		2 (金) 8 (木) 15 (水) 21 (火) 27 (月)	5 (月) 9 (金) 18 (土) 24 (土) 30 (金)	12 (月)	1 (木) 7 (水) 14 (火) 20 (火) 26 (火)	
	10月	6 (木) 13 (木) 20 (水) 26 (火)	7 (金) 14 (金) 21 (木) 27 (水)		1 (土) 9 (日) 16 (土) 23 (土)		3 (月) 8 (土) 15 (土) 22 (土) 28 (金)	4 (火) 11 (火) 18 (火) 25 (火) 31 (月)	5 (水) 12 (水) 19 (水)	2 (日) 10 (月) 17 (月) 24 (月) 30 (日)
	11月	1 (火) 7 (月) 13 (日) 19 (土) 27 (日)	2 (水) 8 (火) 14 (月) 20 (日) 28 (月)		4 (金) 10 (木) 16 (水) 22 (火) 30 (火)		3 (木) 9 (火) 15 (月) 21 (土) 26 (金)	6 (日) 12 (金) 18 (木) 24 (火) 29 (火)	25 (金)	5 (土) 11 (金) 17 (木) 23 (水)

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります

◎問い合わせ先 伊豆諸島開発株式会社 ☎ 03-3455-3090